

地域医療支援病院業務報告要旨

I 概要

病院名	フリガナ	カヤマキョウトウビョウイン
		岡山旭東病院
所在地		岡山県岡山市中区倉田567-1
管理者氏名		院長 吉岡 純二
承認年月日		平成23年7月29日
業務報告書提出日		令和5年10月2日

II 業務報告

対象期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
------	--------------------

1 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

承認要件	紹介率 50%超、逆紹介率 70%超	
紹介率	$\text{①} / (\text{②} - (\text{③} + \text{④} + \text{⑤})) \times 100$	57.3 %
※患者数は延べ人数	①紹介患者数	8,398 人
	②初診患者数	17,353 人
	③地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬入された患者の数（初診に限る）	1,493 人
	④休日又は夜間に受診した救急患者の数（初診に限る）	1,208 人
	⑤健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認めて治療を開始した患者の数（初診に限る）	0 人
逆紹介率	$\text{⑦} / (\text{②} - (\text{③} + \text{④} + \text{⑤})) \times 100$	89.0 %
※患者数は延べ人数	⑦逆紹介患者数	13,044 人

2 共同利用の実績

高額医療機器共同利用件数	3,218件
共同利用病床数	10床
共同利用病床利用率	88.1%
共同利用施設・設備	開放病床、MRI、CT、PET-CT、RI、サイバーナイフ、骨塩定量、図書室
登録医療機関数	46機関

3 救急医療の提供の実績【（1）又は（2）のどちらかを選択すること】

（1）救急患者数

救急搬送による救急患者数	1,829人 (939人)
救急搬送以外の救急患者数	1,388人 (108人)
合計（うち初診患者数）	3,217人 (1,047人)

※括弧内は、入院を要した患者数

(2) 救急医療圏（2次医療圏）人口における救急搬送患者数割合

A：救急用又は患者輸送用自動車により搬入した救急患者の数 (初診患者のみ)	人
B：救急医療圏（2次医療圏）人口※	人
C：A/B×1000>2	(小数点第1位まで記入)

※2次医療圏人口に関しては総務省統計局により実施された直近の国勢調査の人口（該当2次医療圏における市区町村人口の総和）を用いること。

(3) 救急用又は患者輸送用自動車所持台数

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

4 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

研修の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんなときどうする?～認知症患者さんの味方になる診方～」 ・互いに認め合い、尊重しあう「職場環境づくり」～ホスピタリティマネジメントについて考える～ ・過ごしたい場所で過ごせるように、筑豊地域で取り組んでみたこと ・虐待対応のポイント 等 	
地域の医療従事者への実施回数		14回
合計研修者数 ※院外からの延べ参加人数		360人
研修体制	研修プログラムの有無	有
	研修委員会の設置の有無	有
	研修指導者数	24人
研修施設	会議室（さくら、あさがお、ひるがお、ゆうがお、ひまわり）、講堂、放射線カンファレンスルーム、図書室	

5 診療並びに病院の管理運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者	院長	
管理担当者	事務部長、診療情報管理室長	
診療に関する諸記録の保管場所	病院日誌は事務局保管、その他の記録等は電子カルテ保存（一部の紙媒体は診療情報管理室で保管）	
病院の管理及び運営に関する諸記録の保管場所	共同利用の実績	医療秘書課 地域連携室
	救急医療の提供の実績	医療秘書課 地域連携室
	地域医療従事者向け研修の実績	医療秘書課 地域連携室
	閲覧実績	診療情報管理室
	紹介患者に対する関係帳簿	医療秘書課 地域連携室

6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者	院長		
閲覧担当者	医療秘書課 地域連携室職員		
閲覧に応じる場所	医療秘書課 地域連携室		
前年度の総閲覧件数			0件
閲覧者別延べ件数	当該病院に患者を 紹介しようとする	医師	0件
		歯科医師	0件
	地方公共団体		0件
	その他		0件

7 委員会の開催実績

委員会の開催回数	4回		
委員会の概要	<p>①令和4年5月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の業務報告について ・てんかん治療の紹介について <p>②令和4年8月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度4月～6月の業務報告について <p>③令和4年11月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度7月～9月の業務報告について ・FUS治療の紹介 <p>④令和5年2月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度10月～12月の業務報告について ・看護部の紹介、特定行為看護師の活動 		

8 患者相談の実績

相談を行う場所	患者相談支援センター、医療福祉相談室、その他（病棟面談室・外来相談室）		
主たる相談対応者	社会福祉士（MSW）、事務部職員、地域連携室職員、入院前支援看護師、医療安全管理室リスクマネージャー		
相談件数			7,518件
	<p>①相談項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的問題、家族問題、療養中の心理的・社会的問題、受診・受療に伴う相談、退院相談、他機関の紹介および連携、各種社会保障制度利用、病状関連（主治医との調整、確認、情報提供等）、インフォームド・コンセントの促進（設定および同席等）、アドボガシー、苦情等の相談 他 <p>②諸対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉相談室のMSW（社会福祉士）7名と入院前支援看護師、地域連携室等が連携し入院から退院後のシームレスな相談体制を構築している。相談窓口については院内掲示、ホームページ、入院案内等に掲載し相談窓口の広報を行うと 		

相談の概要	<p>もに、院内各職種にその役割の啓蒙を実施しており、職員からの紹介経路も根付いている。また、院内外に対し医療・介護・福祉関連の制度等の情報発信の実施や地域活動として「認知症サポーター養成講座」や「ACP」「ヤングケアラー」等のテーマに対して啓発活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域委の問題解決、インフォーマルネットワーク構築に向けて地域会議にもMSWが積極的に参加した。 ・患者が安心して治療療養に専念できるような環境作りに向けた院内における各種体制整備（患者相談窓口チーム、入退院支援チーム、医療安全対策チーム、地域連携委員会等）も積極的に行っている。地域連携強化に向けては地域連携室、地域連携担当医、退院調整看護師等とコラボレーションし、地域の医療機関や他職種への挨拶回り、会合等に積極的に参加し幅広く取り組んでいる。
-------	---

9 地域医療支援病院に求められるその他の取組（任意）

（1）病院の機能に関する第三者による評価

病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
評価を行った機関名、評価を受けた時期	<p>①日本医療機能評価機構（S評価：15項目） ・公益財団法人日本医療機能評価機構 2021年1月23日～2026年1月22日</p> <p>②ISO 15189臨床検査室・特定健診対応臨床検査室JAB RM100-2007 公益財団法人日本適合性認定協会 初回認定日：2009年3月23日 有効期限：2025年3月31日</p> <p>③人間ドック健診施設機能評価 日本病院会 有効期限：2022年3月31日</p> <p>④ジャパンインターナショナルホスピタルズ（JIH）の推奨を取得 認定日：2021年12月</p>

注）医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

(2) 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>情報発信の方法、内容等の概要</p>	<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>脳・神経・運動器疾患を専門とする、地域の基幹病院として地域医療支援病院。在宅後方支援病院として主な活動は「高度先進医療の追及」「院外の連携促進」「医療情報の公開・共有」があげられる。</p> <p>当院では「地域連携室」(医療機関向け)と「企画広報室」(一般向け)と「地域医療サポート室」(一般向け健康企画、医療機関向け)で、役割分担し協働しながら情報発信をおこなっている。各2～3名の専任職員を配置して一元的に管理・情報発信できる体制を整えている。これらの活動により、院外の連携を促進し地域で紹介・逆紹介し合い、医療機関や専門機関と共に支えあっている。</p> <p>2019年9月にPHR(Personal Health Record)アプリ「NOBORI」を導入し、患者自身の検査結果やレントゲン、MRI画像、投薬情報などの診療情報などを把握できることで、健康意識の向上に寄与している(利用者数1,200人超)。2021年7月には、病院独自のアプリ「旭東San」のサービスを開始し、外来診察待ち状況外来診察にかかる情報がスマホで確認できるようになった。2023年4月には入院案内を追加し、入院、手術に関する情報を確認することができ、患者の状況や対象に合わせた情報発信に努めている。</p> <p>・ 活動の目的として、「医療介護福祉従事者向けに行う高度先進医療の提供やチーム医療の推進」及び「市民向けに行う最新医療の提供啓蒙・教育」を2つの柱として、活動内容は以下の4分類となる。</p> <p>i .医療介護福祉従事者向け「症例検討会」(主催:当院)地域連携カンファレンス</p> <p>・ 医療介護福祉従事者向けの活動として、地域の医療からケアの水準向上に向けて教育・情報共有などの目的で毎月「地域連携カンファレンス」を開催している。参加者の要望に応じて各現場(医療。介護福祉施設-救急隊)へ活かしやすい企画となるよう、開催毎に行うアンケート結果を活かし、各現場からのテーマにそった具体的な事例、専門職種による講演。実演、動画を盛り込んだ参加型学習会の企画運営を行っている。2021年度も引き続き新型コロナウイルス感染症流行に伴い、開催方法をオンライン形式に変更して開催した。移動の準備も不要で気軽に参加できる為、普段来院が困難な遠方の方々にも幅広く参加して頂くことが出来た。</p> <p>ii .市民向け「健康教室」(主催:当院) .転倒予防健康教室・糖尿病教室-パーキンソン病健康教室・愛脳会</p> <p>・ パーキンソン病健康教室は3月と8月に感染症対策を講じながら開催した。</p> <p>・ 2020度から開始した健康情報ヘルシーチャンネルでの運動動画(毎月)やパーキンソン病の教育講演のYouTube配信の2022年度視聴回数、総再生時間は昨年度より更に多くの視聴があった。(65歳以上の高齢層の視聴が多い。)</p> <p>iii .市民向け「健康企画」(主催:院外) .出前講座・地元大学との共同企画・地元企業との共同企画</p> <p>・ 地域の公民館・図書館での出前講座・地元大学との共同企画・地元企業との共同企画については、多専門職種が協働で講師となり、企画段階からの相談役として地域住民の健康増進に携わっている。</p>

・「認知症サポーター養成講座」については、年度中2回、地域の公民館にて開催実施できた。

iv 患者-市民向け「広報活動」(主催:当院)各種最新医療や健康に役立つ情報発信

患者・地域住民を対象に、健康に役立つ情報(疾患別パンフレット本や健康講座等)を作成し、開かれた病院施設を目指し、患者、連携先医療機関、市民等を問わず、幅広く情報を発信するため、広報誌の発行(年4回)、ホームページの整備(毎週更新)、地域情報誌への連載(年6回)、新聞、雑誌、マニフェストなどのリーフレット等様々な媒体を積極的に活用している。

また、地域のオープンスペースとして認証されている情報コーナー「健康の駅」を院内に設置し、連携施設の情報や健康増進手法などの情報を自由に得られる環境も整備している。

・その他活動(岡山市中区におけるネットワーク)

岡山市中区では、2006年より病病連携として近隣病院と「旭東地区ネットワーク」を発足、連携担当で顔の見える連携を開始。2012年よりこれらに加え、在宅医、在宅サービス事業所、行政、専門職団体がコアメンバーを担い「中区地域ネットワークアクションプラン策定会議」を発足。現在、ネットワークを「なかまち一ず」と改名し中区の医療介護福祉機関に加え住民、企業、学校、消防等と連携し、地域の健康増進や繋がり作り、地域課題の解決に向けた地域活動を展開している。

活動例として、中区地域の課題解決に向けて、「多職種の顔の見える連携」、「地域住民との意見交換」、「在宅ケアの推進」、「認知症による普及活動」の4つを柱として、住民への普及啓発を行なう事、また地域住民と専門職との顔つなぎ、繋がりのお機会づくりを目的に、「なかまち一ず市民と専門職との意見交換会」「なかまち一ず多職種との意見交換会」、地域へ医療・介護。福祉関連のネットワークや情報を知ってもらう「なかまち一ずフェスティバルの開催」に取り組んでいる。2018年より自主化に伴い、当院地域医療サポート室が事務局を担い活動を行っている。2022年度も新型コロナウイルス感染症流行に伴い、「なかまち一ず市民と専門職との意見交換会」「なかまち一ずフェスティバル」については自粛せざるを得なかった。「なかまち一ず多職種との意見交換会」については、「つながりをもとう」をテーマに開催。また、なかまち一ず中区地域の問題点・課題等の事例検討会も開催した。少子高齢化が加速し、地域包括ケアシステムが提唱される現代、病院として医療という側面を活かした自助・互助-公助・共助を支える一環として、当院の専門性を活かした健康増進活動を積極的に行っている。

ふれあい企画として3月にコンサートの再開を果たすことができ、外来患者を中心に多くの人が集った。

(3) 退院調整部門

退院調整部門の有無	有
<p>退院調整部門の有無概要</p>	<p>・患者相談支援センター内に医療福祉相談室（MSW7名）と退院調整看護師が常駐し退院支援を主に担っている。MSWを各病棟に配置し、全患者の入院時スクリーニングを看護師が行い、入院1週間以内に初期カンファレンスを開催、毎週診療科毎のカンファレンスと病棟による病棟カンファレンスにて他職種協働で退院支援のアセスメントおよび計画等を実施している。</p> <p>・個別支援における多職種チームとは別に、退院支援の質向上を目的に院内多職種による退院支援チーム（DST）を設置しそのチームを中心に、患者・家族が退院（転院）後も安心して療養生活を送れるように、多職種協働で質の高い退院調整・支援を行うための院内の体制構築およびシステムの定着化など退院支援の質向上にも努めている。</p> <p>DSTの具体的活動内容としては、①退院支援における問題点の抽出および解決、②退院支援システムの内容の見直しおよび定着、③退院指導の標準化、④定期的啓蒙活動（スタッフの教育、勉強会開催等）を行っている。</p>

(4) 地域連携を促進するための取組

地域連携クリティカルパスの策定	有
<p>策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容</p> <p>地域連携クリティカルパスを普及させるための取組</p>	<p>①策定した地域連携クリティカルパスの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折、脳卒中 <p>②地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国策である5疾病5事業の医療計画に伴い、県内でも岡山市を中心として平成18年度から「地域医療連携が継ぎ目なく円滑に行われ良質の医療を提供する」ことを目的とした医療連携活動が発足し、大腿骨頸部骨折・脳卒中の地域連携パス運用組織である「岡山もも脳ネット」が平成20年に発足。 <p>一病院完結型ではなく、連携病院完結型の治療計画や情報提供内容のフォーマットの作成、及び運用管理について、組織の立ち上げ当時から岡山版の構築や運用管理について、事務局的な役割を担う一病院として尽力している。2022年度も前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、オンライン開催の理事会に定期参加した。</p>

病院名

岡山旭東病院